

アンケート調査からみた卸売魚市場における ウマツラハギの入荷状況と価格について

柴 田 勇 夫

On the arrival condition and the price of file-fish,
Navodon modestus (GÜNTHER), in wholesale markets,
through the inquiry

Isao SHIBATA*

は し が き

ウマツラハギは、瀬戸内海や一部内湾域を除き、1970年頃より全国的に増加し、特に太平洋岸でその傾向が顕著である(東京水産大学ウマツラハギ研究班, 1973)。

従来より瀬戸内海を中心とした関西方面では、本種に対する需用が多く、近年この海域での漁獲は少ないこともあって価格も良いが、急増地域では、生鮮食品としての評価が低く、他の沿岸魚の価格と比べても安価である(木幡, 1979a)。

神奈川県沿岸漁業における重要な地位を占めている定置網漁業のうち、相模湾西部の大型定置網では、1970年以來ウマツラハギが漁獲物の第1優占種となり、毎年2~4月を中心に、年間1,400~1,700トンの水揚げし、全漁獲物の約40%を占めている(神奈川県定置漁業研究会・神奈川県水試相模湾支所, 1971-1980)。しかし本県におけるウマツラハギの価格は安価なため、漁獲量の多い割には、漁業収益に結び付かず、その経営は苦しい状況が続いている(木幡, 1974, 1979b)。

このため神奈川県は、1979年4月から1981年3月までの2ケ年間、組織的調査研究活動推進事業として、ウマツラハギを中心とした沿岸性多獲魚の生産・流通・消費に関わる問題を多角的にとらえ、「多獲性魚の有効利用と適性評価」についての調査研究を進めてきた(神奈川県, 1981)。

筆者は、この事業の活動チームの一員として、本種の

卸売魚市場における入荷状況や価格について、全国的に調査する機会を得たので、その結果を取りまとめ報告する。

調 査 方 法

全国食品卸売業総覧(食料品流通改善協会, 1979)から、原則として1道府県あたり2ヶ所以上の公設卸売魚市場を抽出し、これらの市場を対象として、1980年3月に調査用紙を郵送し、当該市場における1979年を基準としたウマツラハギの入荷状況、入荷時の形態、価格等について回答を求めた。なお沿海のない県および北海道北部と公設市場の開設されていない島嶼域などは、今回の調査では除外し、1道2府35県にまたがる102市場(図1, 付表1参照)を調査対象とした。

結 果 と 考 察

1. 調査用紙の回収状況

全国102ヶ所の公設卸売魚市場に調査用紙を発送し、55市場から回答を得た。このうち産地卸売市場は46市場、消費地卸売市場が8市場、記入もれによる不明が1市場であった。

調査対象とした市場の道府県別所在地の分布は、図1に示すとおり全国各地に及んでいるが、図には、調査用紙の配布先を印で示し、このうち回答のあった産地市場で、ウマツラハギの入荷する市場を印、入荷しない市場を×印、また入荷する消費市場を・印で示すと共に、

付表1 調査対照とした公設卸売市場名一覧

県名	市場名	県名	市場名
北海道	えりも漁協地方卸売市場	山口	徳山市地方卸売市場
	浦河漁協地方卸売市場		埴生漁協地方卸売市場
	虎杖浜漁協地方卸売市場		漁連地方卸売市場
	豊浦漁協地方卸売市場		湊漁協地方卸売市場
	寿都漁協地方卸売市場		江崎漁協地方卸売市場
	岩内漁協地方卸売市場		高松市中央卸売市場
	瀬棚漁協地方卸売市場		観音寺漁協地方卸売市場
	鹿部漁協地方卸売市場		志度鴨庄連合地方卸売市場
青森	森漁協地方卸売市場	愛媛	八幡浜地方卸売市場
	江差町地方卸売市場		八幡浜漁協地方卸売市場
岩手	地方卸売市場 八戸第1市場	徳島	八幡浜漁協地方卸売市場
	地方卸売市場 深浦魚市場		漁連宇和島地方卸売市場
	鮎ヶ沢地方卸売市場		新居浜漁協地方卸売市場
宮城	地方卸売市場 大船渡魚市場	福岡	徳島市中央卸売市場
	船越湾漁協地方卸売市場		佐喜浜町漁協地方卸売市場
福島	地方卸売市場 志津川町漁協魚市場	大分	地方卸売市場宿毛漁協
	石巻水産物地方卸売市場		地方卸売市場須崎魚市場
茨城	いわき市地方卸売市場	宮崎	福岡市中央卸売市場 鮮魚市場
	那珂湊市地方卸売市場		地方卸売市場浜町漁協魚市場
千葉	平潟漁協地方卸売市場	鹿児島	地方卸売市場長洲漁協魚市場
	銚子市地方卸売市場		地方卸売市場津久見漁協魚市場
静岡	和田町地方卸売市場	長崎	地方卸売市場蒲江漁協魚市場
	千倉漁協第1地方卸売市場		土々呂漁協地方卸売市場
愛知	静岡中央卸売市場	熊本	油津漁協地方卸売市場
	網代魚市場		内之浦町漁協水産物地方卸売市場
三重	伊東魚市場	佐賀	串木野市漁協水産物地方卸売市場
	地方卸売市場豊浜魚市場		志布志漁協水産物地方卸売市場
和歌山	一色漁協地方卸売市場	秋田	地方卸売市場長崎魚市場
	形原水産物地方卸売市場		佐世保市中央卸売市場相浦魚類市場
大阪	和具漁協地方卸売市場	山形	地方卸売市場牛深町漁協魚市場
	尾鷲漁協地方卸売市場		地方卸売市場新水俣魚市場
兵庫	長島町漁協地方卸売市場	新潟	地方卸売市場玄海漁連魚市場
	二木島漁協地方卸売市場		地方卸売市場地高串漁協魚市場
岡山	御坊市漁協地方卸売市場	富山	地方卸売市場船川港地方卸売市場
	すさみ漁協地方卸売市場		秋田県南部漁協金浦地方卸売市場
広島	太地漁協地方卸売市場	石川	山形県漁協酒田地方卸売市場
	大阪市中央卸売市場 本場		新潟市漁協地方卸売市場
山口	大阪市中央卸売市場 東部市場	福井	両津湾水産物地方卸売市場
	佐野地方卸売市場		新湊漁協地方卸売市場
岡山	神戸市中央卸売市場	京都	氷見販売漁連地方卸売市場
	姫路市中央卸売市場		水橋漁協地方卸売市場
岡山	由良町漁連地方卸売市場	鳥根	漁連七尾港地方卸売市場
	浜坂町漁協地方卸売市場		輪島市漁協地方卸売市場
岡山	香住町漁協地方卸売市場	沖縄	地方卸売市場日向共同販売所
	津居山港漁協地方卸売市場		漁連宮津地方卸売市場
岡山	邑久漁協魚市場	岡山	境港水産物地方卸売市場
	地方卸売市場寄島漁協魚市場		網代漁協地方卸売市場
岡山	笠岡魚市場	岡山	浜田市営水産物地方卸売市場
	地方卸売市場広島魚市場		浜田水産物地方卸売市場
山口	玖波区漁協地方卸売市場	岡山	和江水産物地方卸売市場
	岩国市地方卸売市場		漁連地方卸売市場
			那覇地区漁協地方卸売市場

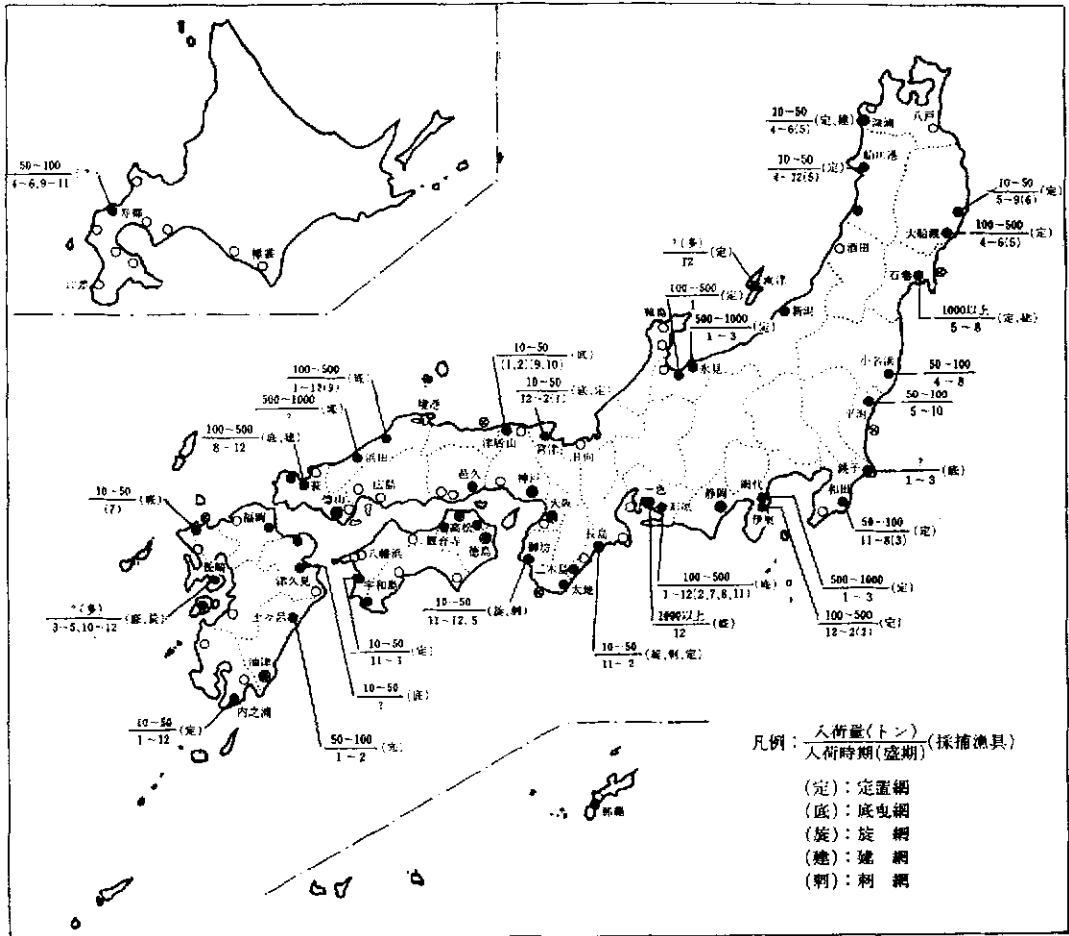


図1 道府県別卸売市場の分布(調査用紙配布先)と主な産地卸売市場におけるウマツラハギ入荷量

図中、印は調査用紙の配布先を示し、印は調査用紙の回収された市場のうちウマツラハギの入荷する産地市場、×印は入荷しない市場・印は入荷する消費地市場を示す。

産地市場における域内産の入荷量が、年間10トン以上に及ぶ市場については、その入荷量等についても示した。ただし図の煩雑さを避けるために個々の市場名については省略した市場もあるので、本調査で対象とした卸売魚市場の市場名を付表1に示した。

2. 産地卸売市場の入荷状況

ウマツラハギは、水産統計年報の魚種別漁獲量では、「その他」の魚種に包含されているため、全国的な漁獲状況は明らかでないが、東京水産大学ウマツラハギ研究班の調査(1973)によると、ほぼ全国的に分布しているという。

図1の産地卸売市場における域内入荷量は、その地域

の漁獲量として見ることもできる。そこで図1を概観すると、太平洋側の岩手以南では、地域による漁獲量(入荷量)の多寡はあっても各県で漁獲され、青森以北では回答がなく、この海域での漁獲は無いが、有っても極く少ないと思われる。日本海側について見ると、北海道寿都以南の各県で漁獲され、今回の調査では山形・石川・福井各県の市場からは回答が得られていないが、隣接県の漁況から判断して、これらの県下でもウマツラハギは漁獲されていると思われる。事実、後述するように石川県産のウマツラハギが他県の消費地卸売市場へ流通している例もある。また瀬戸内沿海の各県における漁獲は少なく、今回の調査結果は、先に行なわれた調査(東京水

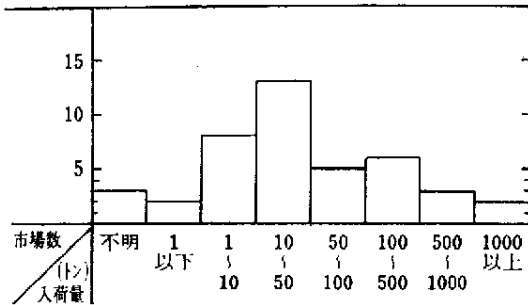


図2 産地卸売市場におけるウマヅラハギ入荷量の市場別度数分布

産大学ウマヅラハギ研究班, 1973)とも一致し, この間に各地のウマヅラハギ漁況に大きな変動はなかったと考えられる。

全国的に見た産地卸売市場におけるウマヅラハギ入荷量の市場別入荷量は, 年間10~50トン程度の市場が最も多く, 入荷量別度数分布は図2に示すとおりであった。

なお産地卸売魚市場における入荷量は, その地域における漁業形態に左右され, 漁具別の入荷状況は, 定置網と底曳網によるものが多く, 本州太平洋側では伊豆半島以北が定置網, それ以南は底曳網。日本海側では富山以北で定置網, それ以南は底曳網。また九州では底曳網による入荷量が多いようである。

3. 消費地卸売魚市場の入荷状況と入荷先

今回の調査で消費地市場として回答のあった8市場のうち, ウマヅラハギの入荷量が, 年間100トン以上に及ぶ4市場と産地市場であっても域外産の入荷量が100トン以上ある1市場における入荷先を示すと表1のようであった。各市場への出荷先毎の出荷量については明らかではないが, 図1と共に表1を見ると, 本種の主な生産地(県)が分かる。これによれば, 岩手・宮城・神奈川県・静岡・愛知・三重・徳島・高知・愛媛・富山・石川

・鳥取・島根・鹿児島・長崎の各県と新潟県佐渡と山口県の日本海側での漁獲も多い。

4. 産地卸売市場価格

ウマヅラハギの卸売市場価格は, 産地・消費地市場とも入荷量・入荷時期・銘柄・地域等によって異なっている。

入荷量と魚価とは, 一般的には逆比例するが, 本種の場合, 銘柄・地域による価格差も大きい。

図3に産地卸売市場別に入荷量(銘柄区分なし)と鮮魚銘柄大の価格の関係を示す。これによれば, 年間入荷量が50トン以上となる地域の市場価格は, それ以下の地域の価格よりも低く, これらの地域はどれも最近10ヶ年前後にウマヅラハギの急増した地域であり, 本種に対する評価も低い。これに対し, 従来より評価の高い瀬戸内海隣接県の産地市場では, むしろ品薄の状況にあり, 香川県観音寺漁協地方卸売市場では, 鮮魚銘柄大のキロ当たり価格(以下, 価格はキロ当たりの単価で示す。)が, 1,000~400円, 入荷量の少ない時には高値で2,000円であるという。

年間10~50トンの入荷量でありながら北海道寿都町漁協地方卸売市場, 青森県深浦漁協, 岩手県船越湾漁協魚市場の価格は低く, 島根県和江水産物地方卸売市場, 富山県氷見販売漁協連合会地方卸売市場, 宮城県石巻魚市場の価格は, 入荷量の多い地域にあっては比較的良好な価格を維持しているようにみえる。ただし各市場の入荷量に対する銘柄大の占める割合が不明であり, この点調査上の不備があった。

つぎに銘柄別価格についてみると, たとえば年間500~1,000トンの入荷がある富山県氷見では, 鮮魚銘柄大が500~200円であるのに対し銘柄区分なしの平均価格は90円となり, 年間入荷量10~50トンの和歌山県御方市場では, 鮮魚銘柄大が500~200円, 平均価格で300円のとこ

表1 ウマヅラハギの主な消費地卸売市場における入荷量・入荷時期および入荷先

市場名	入荷量(トン)	入荷時期(月)	入荷先(県)
大阪市中央卸売市場 東部市場	1,000	10~3	神奈川県, 静岡県, 三重県, 徳島県, 高知県 鹿児島県, 長崎県, 石川県, 島根県, 鳥取県
神戸市中央卸売市場 本場	500~1,000	10~5	神奈川県, 三重県, 徳島県, 福岡県, 長崎県 富山県
徳島市中央卸売市場	100~500	10~3	徳島県, 高知県, 愛媛県
高松市中央卸売市場	100~500	1~12	高知県, 愛媛県
氷見販売漁業協同組合 連合会地方卸売市場	100~500 (500~1,000)	1~3	石川県

注:()は域内産入荷量

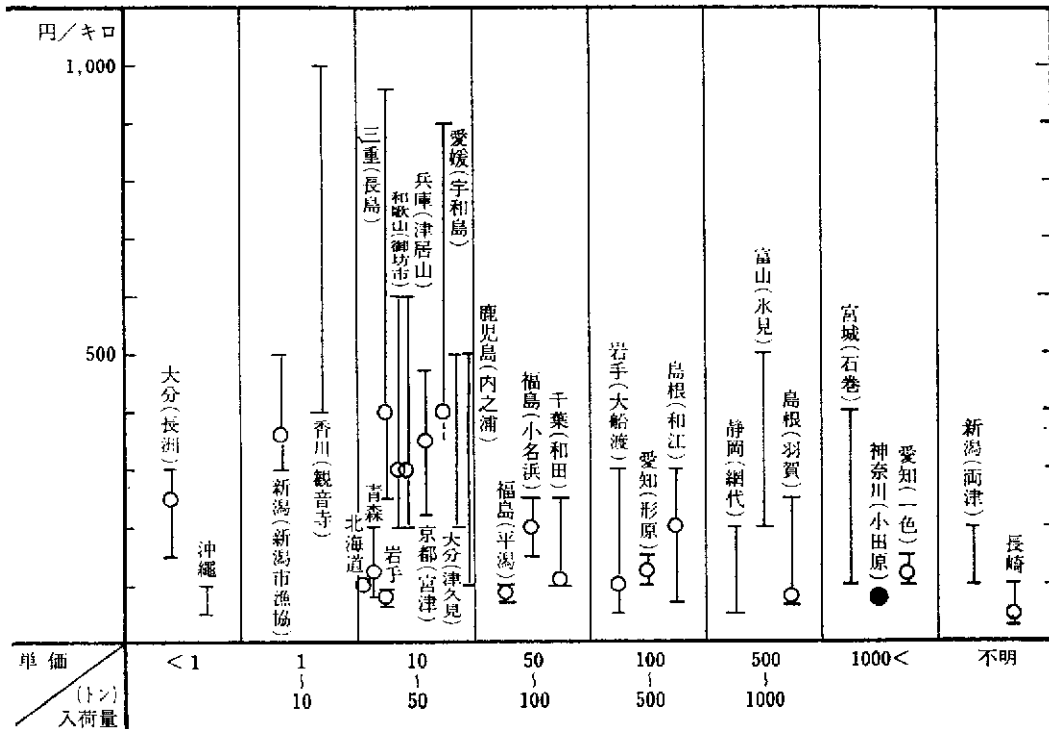


図3 産地卸売市場におけるウマツラハギ入荷量と価格(鮮魚銘柄大)

る、銘柄小では50~12円、平均価格で16円となっている。

以上の例で見ると、本種は銘柄による価格差が大きい。なお銘柄別の消費形態としては、大の場合生鮮食品、中は生鮮食品と加工、小は加工向けが多い。

最近の価格の年変動に対する設問の回答は、38市場から得られたが、これによれば「変らず」と答えたのが26市場、値上がり傾向が11市場、値下がり傾向が1市場あり、現在の価格(銘柄:大)を1972年の調査結果(東京水産大学ウマツラハギ研究班, 1973)と比較すると、東北・九州南東域では、当時100円以下であったのが、現在では100円前後となり、神奈川・静岡・愛知で変化がなく、長崎ではやや低下している以外は、概ね上昇しているようである。前者と今回の調査では、若干調査対象が異なっているが、1972年の調査時に100円以下であった地域は、神奈川県をはじめ14県であったが、今回の調査では最低価格が100円以下となっているのは、北海道・青森・岩手・福島・神奈川・島根・長崎・沖縄の1道7県であった。

5. 消費地卸売市場の価格

調査対象市場のうち消費地市場は少なく、8市場に過ぎなかったが、消費地市場の入荷量(銘柄区分なし)と鮮魚銘柄大の価格の関係を図4に示す。ここでは、図3に示した産地市場とは逆に、入荷量の多い市場ほど市場価格もよく、本種の需用が関西で多いことを示している。なお大阪市中央卸売市場東部市場と神戸市中央卸売市場本場におけるウマツラハギの入荷時期は、ほぼ10~5月の期間であり12~1月は高値、3~4月頃は低値となり、関西における本種の需用は、生鮮食品として主に冬に消費されている。

要 約

ウマツラハギの需用動向や市場価格を知る目的で、1980年3月に全国各地の公設卸売魚市場を対象に、入荷状況や価格に関するアンケート調査を行なった。

1. 全国各地の公設卸売魚市場102市場を対象として調査用紙を郵送し、55市場から回答を得た。このうち産地市場は46市場、消費地市場が8市場、記入もれによる

* 銘柄 大: 25cm以上, 中: 25 - 20cm, 小: 20cm以下

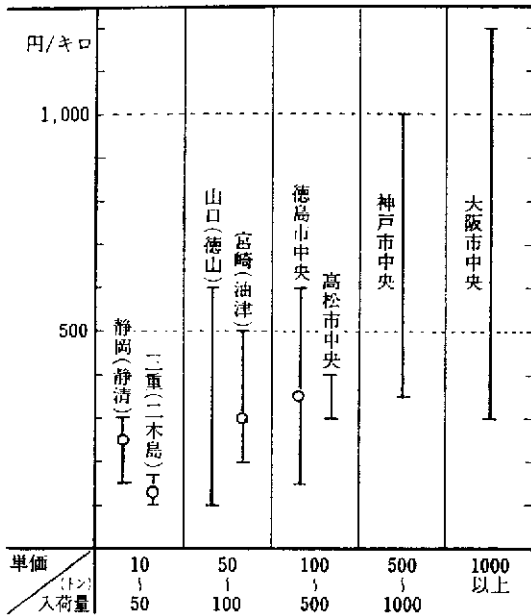


図4 消費地卸売市場におけるウマツラハギの入荷量と価格(鮮魚銘柄大)

不明が1市場あった。

2. ウマツラハギは、青森以北の太平洋側と北海道寿都町以北の日本海側および瀬戸内海や内湾域の一部を除きほぼ全国的に漁獲されている。

3. 産地市場におけるウマツラハギの年間入荷量は、10~50トンの範囲で入荷する市場が多く、中には1,000トン以上の市場もある。

4. 主な消費地市場の入荷量とその入荷先を表1に示した。入荷先が複数に及ぶ場合、夫々の入荷先における数量が明らかでないが、入荷先(県)は、ウマツラハ

ギの生産県とみられる。

5. 卸売市場におけるウマツラハギの価格は、入荷量・入荷時期・銘柄・地域などにより著しく異なり、産地市場では入荷量が多い地域で安価であるが、消費地市場では入荷量の多い市場ほど高値の傾向がある。

6. 産地市場価格について、1972年に東京水産大学ウマツラハギ研究班が行なった調査結果と今回の調査を比較すると、神奈川・静岡・愛知で変わらず、長崎でやや値下がりしている以外は概ね値上がり傾向にある。

参考文献

神奈川県(1981):多獲性魚の有効利用と適性評価に関する研究, 1 - 64 .
 神奈川県定置漁業研究会・神奈川県水産試験場相模湾支所(1971 - 1980):昭和45 - 54年度相模湾定置網漁海況調査表
 木幡 孜(1974):相模湾産重要魚種の生態 - 西湘沿岸における有用動物相の特徴と漁獲金額組成に関する考察 相模湾支所報告, 6, 59 - 63 .
 木幡 孜(1979a):定置網漁況からみた相模湾の生産性に関する考察 - の2 主要種生産者価格の年変動傾向について, 相模湾資源環境調査報告書 - 神奈川県水産試験場・同相模湾支所, 105 - 115 .
 木幡 孜(1979b):定置網漁況からみた相模湾の生産性に関する考察 - の1 経済的生産性の現状と問題点, 相模湾資源環境調査報告書 - 神奈川県水産試験場・同相模湾支所, 93 - 103 .
 (社)食料品流通改善協会(1979):全国食品卸売業総覧 1979年, 1 - 816 .
 東京水産大学ウマツラハギ研究班(1973):アンケート調査よりみたウマツラハギの全国的繁殖状況, かながわていち, 47, 18 - 22 .